

領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>正答率は79%で、よく理解されている。</p> <p>(2) 除法を用いる問題 正答率は52%である。 割合 = 割合に当たる量 ÷ 基になる量の 関係式が活用できないためと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基になる量、割合に当たる量、割合の三つの関係把握についての十分な指導が必要である。</li> </ul>
<p>6. 二つの分数間にある整数 正答率は43%と低い。これは、整数が特別な分母を持った分数の形で表されることの理解が不十分なためと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整数、小数、分数の用語を正しく理解させ、これらの、相互関係についても理解させる。</li> </ul>
<p>7. 四則計算の可能性を調べる 正答率は59%である。誤答の多くは「いつも0より大きい整数になる」の「いつも」を忘れて答えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単に取り扱われがちであるが、「条件文」を正しく読みとる指導は大切である。</li> </ul>
<p>8. 不確定な事象を数で表す 正答率は76%で、よく理解されている。</p>	
<p>領域①（数と計算）について</p> <p>分数の計算では、四則混合算を除いて、殆ど正答率は70%を越えており、計算技能は優れている。四則混合算は、乗除先行の計算規則の見落としによるつまずきである。また数直線上での整数、分数、小数の読み取りや表示にもつまずきが見られる。この整数、分数、小数については、形式的な指導になりやすい内容なので、数直線の特徴を生かし、これらの数の存在や相互関係を十分理解させるようにしたい。</p>	
領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>② 量と測定</p> <p>1. 単位換算 (1)の正答率57%以外は三問とも正答率は30%台と低い。基本単位の大きさが実感としてとらえにくいところに、正答率の低い原因があるものと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メートル法とその単位の仕組みを理解させたい。メートル法の特徴としては、十進法の仕組みによって補助単位が決められていること、基本的な量を基にして他の単位が誘導される仕組みを持っていることを指導する。</li> </ul>